

第3次茅ヶ崎市子ども読書活動推進計画の評価方法について（案）

1 評価の目的（めざすこと）【計画5ページ】

- ・とりくみの進み具合をふりかえる
- ・ほうこくする

→（図書館評価）公開して住民に意見を求めることが必要（図書館ハンドブックP150）
→審議会（茅ヶ崎市立図書館協議会）は、住民と図書館を繋ぐ制度

2 第2次計画評価のふりかえり

【計画20ページ：策定方針抜粋】

図書館と学校で更なる連携をしていく必要があることや、数値目標のあり方について指摘されています。第3次計画の策定においてもこれらの考え方を尊重していくとともに、数値目標の設定や質的な評価のあり方等について検討していきます。

→定性的評価、定量的評価の両面で評価すること

第3次計画においては、家庭での取り組み状況を把握・分析する方法を検討し、その取り組みを推進します。

→「家庭へのアンケート」を実施。11月調査の結果が1年半後の3月に公表というタイムラグが発生する（後述）。

●第2次計画評価作業のふりかえり（良かったこと、課題等）

- ・ 写真で載せるとわかりやすい（場合によって顔にスタンプやぼかしを入れる配慮）
- ・ 評価した後の活用がない（評価して終わり）
→評価書を踏まえて次のアクションを考えるフェーズがない
→横展開（事例集）として、例えば学校司書等研修に活用できないか
- ・ 経年で見られるのでわかりやすく、担当が変わっても作成しやすいが、ページ数が年々増える（H28年度評価書40ページ→R4年度評価書54ページ）
- ・ 単年と定例のイベントを表現しづらい
- ・ 評価の事務負担を抑えたい（第1次→第2次でかなり軽くしたが、それでもなお）

3 第3次計画の評価方法（案）

(1) 写真を中心にする

→写真&自己評価掲載の簡単なフォーマットを作成

→評価年度で特に報告したいことを取り上げ、写真にしにくいところを下の記事欄で

補う。1～2ページにおさめる

(2) 「やさしい日本語」で書くのは難しい

→小3で習う漢字かどうか調べたり、ルビを振ったり、作業量が多い。改善を行うのは大人であり、やさしい日本語によらない方が評価は具体的になる

(3) 計画の「チェック欄」的な作りを生かすか&経年変化を表現するか

→ほぼ全てに■が入ると思われるので、「どのようにやれたか」が重要

→数値目標のみ第2次計画と同じように経年で表現

(4) 協議会の「意見書」は前計画を踏襲。ただし、1～2ページにおさめる

(5) 家庭へのアンケート結果を掲載する(評価は令和5年度に実施した結果を使い、参考として令和6年度実施分も評価書に載せる)

(6) 評価書発行後(年度当初)にふりかえりの連絡調整会議を開催する

→担当が変わることもあるため、評価作業の確認を含めて開催する。来年度予算、事業の検討に生かすことも期待する

●イメージ

<p>しりつとしょかん 市立図書館</p> 	<p>とりくみ 17</p>	<p>子どもたち みんなが ^{つか}使いやすい い ^{としょかん}図書館に ^{しょう}しよう</p>
---	--------------------	---

<p><input type="checkbox"/> おすすめの本を ^{ほん}てんじます</p>  <p>「Nice to meet Book!」 スタンプラリー (本館)</p>	<p><input type="checkbox"/> おすすめの本を ^{ほん}てんじます</p>  <p>子ども読書の日 特別展示 (青少年会館図書室)</p>
---	--

スタンプラリーは、多くの参加があり、今後も続けたいと考えます。
図書室の展示は、Xに投稿していますが、『ちがさきの図書館』に記録がないため、今後、記録する方法を考えます。

↑【自己評価】成果があったこと、反省、課題等を記入。